



2020-21 年度会長 ホルガー・クナーク 2021 年 1 月



ついに1月です。2021年が始まるにあたり、この1年間以降のこともロータリーは見据えています。2022年、2023年、さらにそれ以降に自分が何をしているか、お考えでしょうか。未来を見ることはできませんが、行きたい方向へと向かうことができます。どのロータリークラブにとっても、少なくとも年に一度は戦略会議を開くのは大事なことです。今月は、クラブの計画づくりに大きくかかわってきたグレッグ・ヤンク元 RI 理事が話してくれました。

『準備の失敗は失敗の準備』という有名な金言があります。ロータリーだけでなく、人生のどの局面でも、成功するために計画は欠かせません。ロータリーは年を追うごとに計画作りのスキルを向上させています。多くのロータリークラブが戦略計画で成果をあげています。これまで数多くのクラブと一緒に、私が青写真と呼んでいるものを作ることで、道筋をつけるお手伝いをしてきました。『クラブのビジョンは何か』という根本的な問題の答えとなる複数年計画の事です。その中でもすぐれた計画は、クラブが有する最高の機会にリソースを一点集中させていました。会員や地域社会のために、すべてのニーズに応えることはできません。人的、金銭的、時間的リソースが限られていますから。会員のための道筋を描く上で、持てるもの、持たざるものを考慮に入れるのが成功する計画づくりの秘訣です。

複数年戦略計画の作成に着手するには、まず、『今後2、3年におけるイニシアチブと優先事項は何か』と会員たちに問いかけ、自由に意見を出してもらいましょう。その答えを、目標を具体的に提示し、成果を測定できるように、具体的な手段や行動を提示して書き出します。

次に、イニシアチブを三つから五つの優先事項に絞りこみます。その後クラブは各イニシアチブの具体的な目的を定め、参加者、主な達成項目、進捗の把握方法、完了までの予定表を作成します。計画は短く、シンプルに。

あとは実行するのみです。イニシアチブの完了まで、進捗を確認し、年に1度は必要であれば計画を見直しましょう。

新しいテーマやアイデアを提供することで、クラブ内で有意義な話し合いがもたれてクラブの活性化につながればと思っています。私たちと同じくらい高潔な理念に導かれた、さまざまな背景や人生経験を持つ、幅広い年齢層の多岐にわたる職業人を、どうすれば仲間にすることができるでしょうか。戦略計画を通じて私たちはこの問題を模索し、どういふクラブにするかということや、どういふ価値を会員や地域社会に提供するかを決定するのです。どのクラブもほかとは異なり、どのクラブも唯一無二の価値を持っています。計画を練る中で、今まで行っていた活動にはもはや重要性や魅力がなくなっていることに気づくクラブもあることでしょう。

戦略計画が完成したら、行動を起こし、必要な変化を起こす時です。そうしてこそ、クラブはさらに強力なものになり、楽しいだけでなく、持続的な本物の影響を地域社会にもたらす、活気に満ちた行動的なクラブへと成長します。クラブの独自性を見つけ、その中核的な価値をすべての活動において大切にすることで、ロータリーは機会の扉を開き、あらゆる人びとの暮らしを豊かにするのです。

令和3年 年初のご挨拶 RID2620 DG 志田 洪顯



令和3年年初にあたりご挨拶を申し上げます。そこで国際ロータリーはいつも前進している話題として、今月はシェーピング ロータリーズ フィーチャー (SRF) のお話を皆様にお伝えします。

皆様は既にクラブ リーダーシップ プラン (CLP)、未来の夢計画、クラブの柔軟性、などのフレーズをご存じだと思います。この20年ほどの国際ロータリーの大きな流れの言葉です。昨年末に SRF (Shaping Rotary's Future) というテーマが国際ロータリーから提起されました。突然に感じるでしょうが2022年の規定審議会に上程され、6年ほどのパイロットプラン (試行) ののち、2030年頃から実施されるべき案が発表されました。世界中で新しいグローバルな地域ガバナンスを議論して欲しいという提案です。

現在国際ロータリーは世界地図上の近接地から34のゾーンに分けられ、その日本の3ゾーンの中には34の地区があり、それぞれにガバナーが選出され50から100のクラブを支援しています。この現制度も永久に続くべきものではありませんので、更に良い組織形態を考えようという提案です。国際ロータリーは国家を避けています。国家間の戦争を防ぐための世界大戦後の反省に基づきます。最近、日本の第1ゾーンはゾーン会員数の減少からパキスタン、バングラデシュなどを含むことになり、第2ゾーンは太平洋諸国も含まれます。今回、日本語、朝鮮語、中国語、スペイン語、英語、アラブ語などという語圏、語族で分けたらどうか、リージョンという単語で区分しようという提案されています。そして現在のロータリーの地区は大きすぎる、もっと小さくしたならガバナンスがいきわたる、ついでにガバナー制度も変えて、リージョンのもとにセクションをつくり25から30のクラブを支援するとしたらどうか、こんな議論を世界中で始めて欲しい、こんな話です。

皆様どんな感じを持たれますか。一人のロータリアンには遠い話と感じられるかもしれませんが。しかし興味を持ってください。固定観念に拘泥せず、前に進める議論もまたロータリアンの権利であり義務です。皆様一人一人がロータリーの未来に参加してください。

最後に一言、今回の提案の中でも、ロータリーの中核的価値観、「奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップ」は不変であると確認されていることを付け加えます。

2021年1月10日 RLI パートⅢが開催されました！

受講者番号	クラブ名	氏名	ふりがな
1	大月	鈴木 龍子	すずき りゆうこ
6	甲府シティ	深澤 壽	ふかさわ ひさし
10	三島	中山 章一	なかやま しょういち
11	伊豆中央	長友 範充	ながとも のりみつ
14	沼津柿田川	梅田 欣一	うめだ きんいち
19	静岡日本平	長島 十己知	ながしま じゅうきち
20	静岡西	白鳥 三和子	しらとり みわこ
21	榛南	榎田 中外	えのきだ なかと
23	浜松東	渡辺 一弘	わたなべ かずひろ
25	浜松中	上村 計介	かみむら けいすけ

今回の受講者は32名、卒業者は10名でした。
卒業されたロータリアンには下記のバッジが贈呈されます。



ロータリー財団委員会より

■子供達にコロナ感染予防啓蒙を兼ねた『クリスマスプレゼント』贈呈■

新型コロナウイルスの猛威が収まらない状況の中、ロータリーの重点項目の一つ「疾病の予防と治療」の取組の為コロナ感染防止啓蒙を目的とした「手洗い・マスク・ソーシャルディスタンス三密」エコバックを作成、コロナ禍で行動が制限されている子供達に、お菓子と一緒にクリスマスプレゼントとして寄贈しました。

寄贈は志田ガバナーより12月14日に静岡県児童養護施設協議会へ2000個、12月18日に山梨県フードバンク山梨へ800個で行われました。



オンライン例会実施

一部都市にて、緊急事態宣言が発令されました。

各クラブで対応は異なり、休例会にされているクラブも多くございます。

開催可否についてはなかなか判断が難しい状況が続いておりますが、例会を開催されているクラブは安全に配慮し対策をしっかりと取られた形で開催をされているようです。

その中でも新しい取り組みとして、オンライン例会を取り入れ始めたクラブも増えてきています。

ZOOMといったツールを使用し、例会を開催しているクラブが多くなりましたが、実運用としては諸々の課題はあるようです。

通常例会をオンラインで覗けるようにすることで、インターネット上からでも例会に参加できる仕組みを構築しています。

オンラインでも出席扱いに出来る為、出席率などにも効果を見込めますので、少しずつ会員への認知も増やしていき、オンライン例会がひとつのツールとして確立していければいいのではないのでしょうか。



国際ロータリー 2620 地区会員数

※ 2020年12月現在

	期首 会員数	前月末 会員数	当月末 会員数	当月増	当月減	通算増	通算減	女性 会員数
77クラブ 合計	2858	2909	2890	6	25	100	68	215

国際ロータリー 2620 地区 2020-21 年度ガバナー事務所

〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町 2-12 安藤ハザマビル 5階

TEL: 054-251-2620 FAX: 054-251-2621

